

関西医科大学 広報



京阪電車樟葉駅ビル内に開設した予防医療施設

「くずは駅中健康・健診センター」開設

Vol.60

CONTENTS

法人：理事長年頭所感

P.1

トピックス：くずは駅中健康・健診センター開設

P.8

トピックス：DX推進室開設

P.9

トピックス：THE世界大学ランキング
ランクイン

P.10

トピックス：連携病院の会

P.10

総合医療センター：糖尿病デーフェスタ

P.19

理事長年頭所感・部署長挨拶

1月4日(水) 16時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「大学」「教育」「研究」「診療」「法人」についての本学の現状を説明。また今後の計画や方針・目標を語りました。

また、理事長の年頭所感表明に続いて、加多乃講堂では副理事長、学長、附属病院長から、リハビリテーション学部棟、総合医療センター、香里病院、くずは病院においては、それぞれ学部長、病院長から挨拶がなされました。



挨拶する澤田副理事長



挨拶する木梨副学長



挨拶する松田病院長



挨拶する飯田学部長



挨拶する杉浦病院長



挨拶する岡崎病院長



挨拶する高山病院長

大学・附属病院(枚方キャンパス)

枚方地区では年頭所感表明の後、枚方キャンパス医学部棟3階学生食堂に会場を移して賀詞交換会が行われました。会場には法人・大学・附属病院から多数の教職員が集まり、新年をことほぎました。

欠席の友田幸一学長に代わり木梨達雄副学長が友田学長からの新年の挨拶状を読み上げ、教育面での質向上、研究面の国際化推進や臨床研究の充実を目標に掲げました。木梨副学長から、研究力の躍進のために教職員間の連携をしていきたいとの意欲が述べられた後、澤田副理事長より新年の挨拶が行われました。乾杯の挨拶は附属病院松田公志病院長(理事)が務め、より良い診療環境の整備やスマート病院構想の実現に向けて邁進していきたいと述べました。

その後会場では教職員が思い思いに歓談し、新年の喜びを分かち合いながら決意を新たにしていました。

リハビリテーション学部(牧野キャンパス)

牧野キャンパスリハビリテーション学部棟2階ラーニングコモンズでリハビリテーション学部飯田寛和学部長から年頭挨拶が行われ、「和を大切に、主張すべきところは主張し、受け入れるべきところは受け入れながら関西医科大学リハビリテーション学部という新しい組織を作っていただきたい」と集まった教職員に語りかけました。

総合医療センター

総合医療センター南館2階臨床講堂に総合医療センターと天満橋総合クリニックの責任者らが集合し、総合医療センター杉浦哲朗病院長による挨拶に耳を傾けました。病院長は、新型コロナウイルス感染症患者を引き続き集中的に受け入れた努力に謝意を伝えるとともに、卒後臨床研修評価機構(JCEP)認定病院に認定されたことに触れスタッフを労いました。

香里病院

香里病院岡崎和一病院長から香里病院8階会議室に集まった教職員に向け年頭挨拶が行われ、昨年、ERの開設や総合診療医学講座設置により急性期病院としての体制が強化されたことについて、職員の尽力に謝意を述べました。また、山下理事長から発表された香里病院新館建設に触れながら、介護福祉部門の強化と開院14年目の飛躍を誓い、「断らない病院として地域に貢献し、いつかは『絶対に』断らない病院を目指したい」と締めくくりました。

くずは病院

くずは病院2階地域医療連携ラウンジにくずは病院各部署の責任者とくずは駅中健康・健診センター浦上昌也センター長らが参集し、くずは病院高山康夫病院長による挨拶が行われました。昨年のスタッフの努力に感謝を伝えたほか、令和5年も病院としてより発展する年になることへの期待を述べ、職員ひとりひとりが進歩してほしいと語りかけました。また、令和4年11月に開設したくずは駅中健康・健診センターとの連携を強めていきたいとしたいうえで、「地域の皆さんの健康な生活や健康寿命の延伸に寄与できるように病院全体で邁進していきましょう」と締め括りました。

くずは駅中健康・健診センター開設

令和4年11月1日(火)、京阪電車樟葉駅直結のビル内に、健診とメディカル・フィットネスおよび健康教育を行う新たな予防医療施設を開設しました。

予防医療の目的は、「早すぎる死」を予防し、心身ともに健康で障害のない期間、いわゆる「健康寿命」を延ばすことに尽きます。まず正確に健康状態を評価するための健診を行い、がん、脳卒中、心臓病などの命を脅かし、生活の質を著しく低下させる病気やその危険因子を早期に発見し、早期治療へと導きます。また、健診により将来に病気を引き起こす要因を明らかにし、改善のための助言、指導、食事・運動療法の実践を行い病気の芽を摘みます。いわゆる未病(未だ病気であらざるもの)を治すことです。

さらに、健康寿命の延伸のため、フレイル、サルコペニアや認知症の予防対策も行います。現在治療中の病気の重症化予防にも取り組みます。受診者が自分の健康状態を正しく理解し、自分で予防対策を実践できる学習実践型予防医療施設(健康カレッジ)となることを目指します。



10月25日(火)の開設式の様子



外 観



健診人間ドックエリア



メディカル・フィットネスエリア

■ 施設概要

〒573-1121 大阪府枚方市楠葉花園町14-1 京阪くずは駅ビル南館2階

■ お問い合わせ先

[代表番号] ☎072-809-2005

■ 診療受付時間

[平 日] 午前9時00分～午後5時00分

[土曜日] 午前9時00分～午後1時00分(第1・3・5)

[休診日] 第2、第4土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月4日)



サイトQR

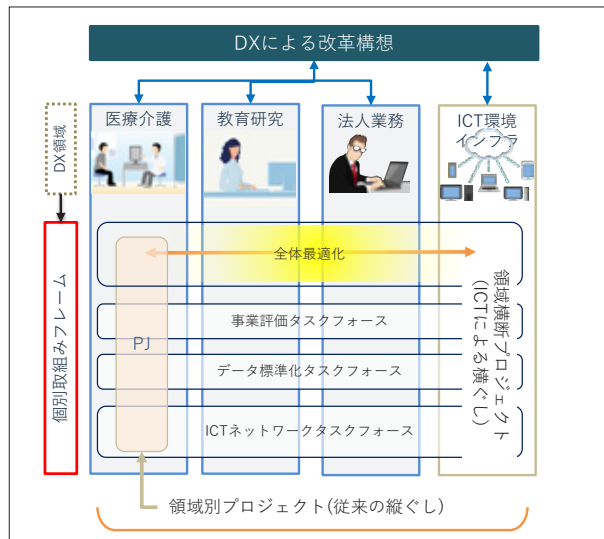
DX (Digital Transformation) 推進室開設

令和5年1月に新たな法人組織としてDX推進室が開設されました。

医療介護、教育研究、法人業務の3つの事業領域を定め、各領域における本学独自の強みをDX戦略により具現化することで、更なる骨太事業を発展させるための戦略組織です。

病院で日々扱っている診療記録、検査データ、多様なデジタル医用画像データ等は、患者個々人の診療を目的として蓄積されています。DXは、元来個人に紐づいた情報に新たな価値を創造するものであり医学の進歩につながる可能性を有します。こうしたビッグデータの活用やAI(人工知能)をはじめ先端ICTの積極的な活用で、より高度な医療/診療や医学の躍進にチャレンジします。また診療サービスの高度化や品質改善を目的とするスマートホスピタル事業にもDXは大きく貢献します。ニューノーマル時代に応じた真に安全で安定した遠隔診療の提供、病院での診療時間に係る待ち時間の解消に代表される患者環境の改善、病院と在宅患者をつなぐ「新しい診療のあるべき姿」の追求に取り組みます。

DXの適用は、事業個別の部分最適化のみならず、学校法人全体の事業経営に対して全体最適化を目指す取り組みです。教育研究におけるDXの適用、法人業務や大学運営業務に対するICT適用も同時並行して取り組みを進めて事業経営の発展を目指して参ります。



DX 推進室理事長特命教授・DX 推進室長に就任して

DX推進室理事長特命教授・DX推進室長 長岡 亨

令和5年1月1日付で関西医科大学DX推進室理事長特命教授・DX推進室長を拝命致しました。本学が所有する情報資産(ビッグデータ)とデジタル技術を活用し、医療の革新、診療事業の拡充、教育研究の更なる高度化等を目的とするDX推進室を発足しました。(DX: Digital Transformation)

私は、当時民営化されてまだ間もない昭和63年に日本電信電話株式会社に入社し、純国産大型汎用コンピュータの基本ソフトウェアやオンライン技術の研究開発に取り組みました。平成4年にインターネットが民間利用に開放される革命的な出来事に直接関わる機会を得て、我が国のインターネット立ち上げに参画しました。この時の貴重な(そして幸せな)経験は私の琴線に大きく触れました。

インターネットの黎明期から30年を経て「Network is the computer.」が現実となり、社会基盤たるICT (Information and Communication Technology) は生命に直接影響するまでに浸透しています。故に、我々が扱うICTは絶対的な正確性と安定性、そしてセキュリティの堅牢性が必須要件であると断言できます。大阪大学での5年間は、高信頼性と高可用性を兼ね備えるサーバ仮想化技術、サイバー攻撃の脅威に耐えうるセキュリティ技術の研究に取り組みました。この成果は、昨今、医療情報を扱う機関が標的となっているランサムウェア攻

撃に対抗できるテクノロジーであり、DX推進の下支えとなるICTとして活けると確信します。

本学が一層の骨太事業を展開するために、DX推進室は創造的で(少し)尖った攻めの活動を強みとしてICT事業の企画立案から実現までを一気通貫で牽引します。この成功には皆様のDXへのご理解とご意見が重要な鍵となります。今後とも引き続きご指導とご協力をお願い致します。



略 歴

昭和63年 4月	日本電信電話株式会社	研究技術本部入社
平成 4年 4月	NTT横須賀通信研究所	情報処理ソフトウェア部門
平成 9年 9月	エヌ・ティ・ティ・コムウェア株式会社	(移籍)
平成15年 4月	〃	モバイルエージェントビジネス推進室 室長
平成15年 7月	NTT社内ベンチャー「Mobile Agent Business」	起業
平成16年12月	西日本電信電話株式会社	(転籍)
平成18年10月	国立大学法人大阪大学	総長直轄CIO補佐官 特任教授
	〃	情報基盤デザイン機構
	〃	サイバーメディアセンター
平成23年 4月	西日本電信電話株式会社	(帰向)
平成24年 1月	関西医科大学	理事長特命顧問(在籍出向)
平成26年 4月	関西医科大学	大学情報センター 部長
令和 5年 1月	関西医科大学	DX推進室理事長特命教授・DX推進室長

THE 世界大学ランキングで私立大学第1位に



令和4年10月12日(水)、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」による世界大学ランキング2023が発表されました。

その結果、本学は『601-800』位にランクイン。日本の私立大学で第1位に選ばれました。国内では国公私立の総合大学も含めて全体の第11位タイ、関西では京都大・大阪大に次ぐ3位となりました。

このランキングは、毎年秋に公表されている国際的

な大学ランキングで、教育力、研究力、研究の影響力(被引用論文)、国際性、産業界からの収入の5分野13項目をスコア化し、総合力を測ったもので、ほかのランキングと比べて研究力と教育力に比重を置いた評価が特徴です。

今回評価項目の中で、本学は「研究の影響力(被引用論文)」において高い評価を得ました。



第6回関西医科大学連携病院の会

令和4年12月3日(土) 15時から、本学枚方キャンパス(各所)、枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにおいて、「第6回関西医科大学連携病院の会」が開催され、本学附属医療機関の連携病院医師ら延べ287名が参加しました。第1部では参加者が附属光免疫医学研究所、関医タワーなどの各所を見学。その後、枚方市総合文化芸術センター関西医大大ホールにて第2部の学術講演会が、地域医療センター木下秀文センター長(腎泌尿器外科学講座教授)司会のもと、山下敏夫理事長の挨拶で開幕しました。基調講演では総合医療センター中森靖副病院長が登壇し、木下利彦地域医療連携担当理事が座長を務める中、「COVID-19最前線から見えたことと、これから」をテーマに講演。続く特別講演では友田幸一学長が座長を務め、附属光免疫医学研究所小林久隆所長が「がんの光免疫療法」をテーマに講演しました。その後、附属病院松田公志病院長、総合医療センター杉浦哲

朗病院長、香里病院岡崎和一病院長、くずは病院高山康夫病院長が、それぞれ附属医療機関の近況や今後について報告しました。

その後、会場を枚方キャンパス3階学生食堂へ移し、懇親会がスタート。本学各講座の教授や教員も出席し、出席者と盛んに情報を交換するなど、親交を深めました。



特別講演を行う小林所長

京都府立医科大学とのWeb情報交換会

令和4年12月2日(金) 18時から、京都府立医科大学の男女共同参画に関する組織である「ワークライフバランス支援センターみやこ」とWebでの情報交換会が開催されました。当日は14名の関係教職員が参加し、両センターの活動紹介の他、キャリア支援教育や女性支援の輪を広げるための方策について意見交換しました。今回初めての試みでしたが、双方にとって有益な会となり、今後は定期的で開催することとなりました。

「施設設備整備拡充事業資金」の募集のご案内

本学は昭和3年大阪女子高等医学専門学校の設立以来、日本をリードする医科大学を目指し着実に発展を続けてまいりました。現在、医学部・看護学部・リハビリテーション学部を擁する医療系複合大学として、次代へ向けてさまざまな事業が計画されております。学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様からの格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆募金室では、個人・法人からのご寄付と遺贈寄付をお受けしております。

個人・法人からのご寄付

募集要項		募金のお手続き	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他	申込書提出 募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。 ・申込書はホームページに掲載しております。 ・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。	
募集期間	令和5年3月末日まで		
税制上の優遇措置 個人 所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます。 法人 受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます。 ※制度についてご説明いたしますので、ご検討の際は募金室へご連絡ください		お振込み 募金専用口座へお振込みください。 ・インターネットバンキングからお振込み ・振込用紙を使用し窓口にてお振込み ※本人確認が必要です ・ATMからお振込み ※上限額がございます	
		確定申告 確定申告いただくと所得税が減税されます。 ・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。 ・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。	

ご希望がございましたら、募金室より申込書、申込書送付用封筒(切手不要)、振込用紙をお送りいたします。

なお、この募金の応募は任意です。

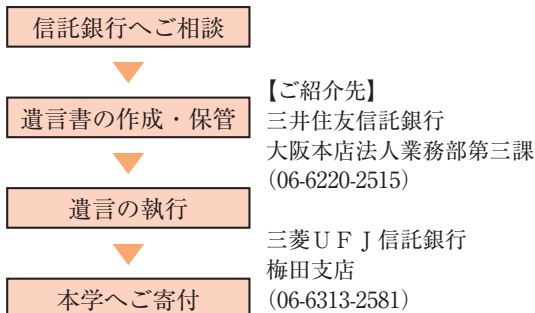
遺贈寄付

●遺言によるご寄付

遺言によって本学に寄付する制度です。

- ・ご遺言を確実に執行するために、信託銀行をご紹介します。

●遺言によるご寄付の流れ



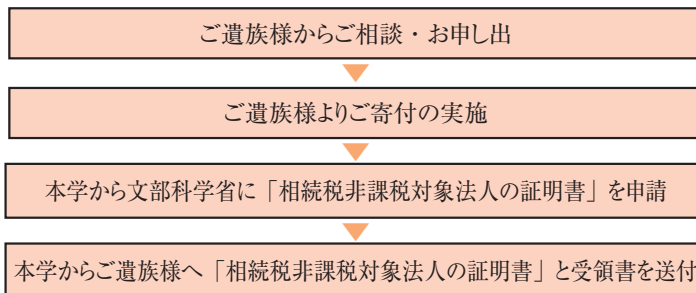
信託銀行を利用して遺言信託をする場合、信託銀行へ手数料が発生します。

●相続財産によるご寄付

故人様のご遺志により相続人様が、相続財産から本学に寄付する制度です。

- ・本学にご寄付された金額を申告により相続税非課税にできます。
- ・現預金のみお受けしております。

●相続財産によるご寄付の流れ



このあと、ご遺族様にてご逝去された日より10ヶ月以内に相続税の申告・納付をお願いいたします。

令和4年10月から令和4年12月までにご寄付いただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

お問い合わせ先

法人事務局募金室
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号
TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344 メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp
ホームページ <https://www.kmu.ac.jp/donation/index.html>



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	11月1日	くずは駅中健康・健診センター開設	
	11月1日	北河内メディカルネットワーク(KMN)能力開発研修	
	12月2日	京都府立医科大学とのWeb情報交換会	
	12月3日	連携病院の会	
	12月6日	北河内メディカルネットワーク(KMN)感染対策共同研修	
	12月14日	目標チャレンジ制度優秀者表彰	
	1月1日	DX推進室開設	
1月4日	理事長年頭所感・部署長挨拶	目標チャレンジ制度優秀者表彰	
大学	10月4日	国際大学院入学式	
	10月5日	白菊会総会	
	10月7日	大学院企画セミナー(第2回)	
	10月12日	THE世界大学ランキングにランクイン	
	10月16日	慈仁会個別懇談会	
	10月22日	看護学部保護者懇談会	
	10月22日、23日	学園祭	
	10月24日	医療ニーズ発表会	
	11月5日、6日	学術祭、ひらかた市民大学	
	11月9日	解剖体追悼法要、慰霊碑供養	
	11月12日	リハビリテーション学部保護者会等	
	11月13日	子ども大学探検隊	
	11月29日	実験動物慰霊祭	
12月21日	国際交流フォーラム	国際交流フォーラム	
12月27日	Student Doctor認証式		
Student Doctor認証式		Student Doctor認証式	
病院	11月5日	「人生会議」市民公開講座	
附属病院	11月1日	術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター開設	
	12月2日	医療情報部学内システム研修会	
	12月14日	消防訓練	
総合医療センター	10月20日	がん教育講演	
	11月16日	災害訓練	
	11月19日	糖尿病デーフェスタ	
香里病院	10月16日	日曜乳がん検診(ピンクリボン)	
くずは病院	12月2日	第1回救急外傷セミナー	
看護キャリア開発センター	10月17日、12月5日	第6期 関医・看護リカレントスクール入学式、修了式	
卒後臨床研修センター	10月21日、22日	第2回指導医養成講習会	第1回救急外傷セミナー
	11月19日	2023年度採用研修説明会	

令和4年度第2回大学院医学研究科企画セミナー開講

医

令和4年10月7日(金)18時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において、第2回大学院医学研究科企画セミナーが開催されました。東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻臨床神経精神医学講座神経内科学分野の戸田達史教授を講師に迎え、『『なおらない』から『なおよ』脳神経内科へ～パーキンソン病と筋ジストロフィーの解明と分子標的治療～』をテーマに、iPS・幹細胞応用医学講座六車恵子教授の司会の下、セミナーが開講。本学教職員の他、学内外から55名が出席し、パーキンソン病・筋ジストロフィーの研究を例に「なおよ脳神経内科」をめざした分子標的治療についての解説や、大学院生へのメッセージ発信などが行われました。講演後の質疑応答でもたくさんの質問が寄せられ、セミナーは盛り上がりを見せました。



大学院生へメッセージを伝える戸田教授

子ども大学探検隊開催

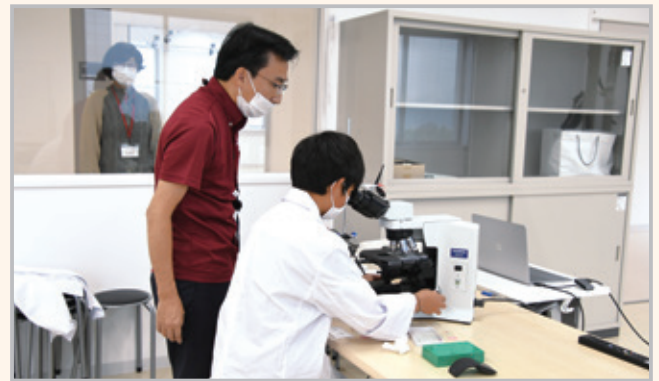
リ

令和4年11月13日(日)13時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において、「子ども大学探検隊」が開催されました。

これは、枚方市内在住および市内の学校に通う小学生を対象とした事業で、今年度は児童10名が参加しました。当日はリハビリテーション学部飯田寛和学部長の挨拶により開会した後、体験するテーマごとにグループに分かれ会場に移動。「筋肉の仕組みを調べよう」ではエコーを用いて筋肉を診断したり、顕微鏡で筋肉の組織を観察したり、また「脳の動きを調べよう」では、さまざまな作業をしている際の脳の血流を調べられる機器を付けて実際に試してみたり、身体障害者用の自

助具を作成したりしました。

プログラムの最後には参加した児童それぞれに受講証が手渡されました。



筋肉の組成を観察する参加者

関西医科大学学園祭2022

令和4年10月22日(土)・23日(日)の両日、「oriens」をテーマにした関西医科大学学園祭2022が開催されました。密を回避するために参加を学内関係者や関連施設勤務者に限り、感染予防対策に十分配慮したうえで実施。枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂や中庭に設置された特設ステージでは、軽音楽部やフォークソング部による演奏、ダンス部による公演、ゲストを招いたお笑いライブなど、2日間にわたって多彩な企画が繰り広げられました。今年も各クラブや各学部、留学生による模擬店を出店。各団体の個性が存分に発揮され、盛況を見せました。



盛り上がりを見せた特設ステージでの演奏

解剖体慰霊碑供養

令和4年11月9日(水) 11時から建仁寺塔頭正伝永源院(京都市東山区)において令和4年度解剖体慰霊碑供養が営まれました。これは、自らの遺志と無条件・無報酬の篤志をもって、医学の発展のためにご遺体を提供された御霊を供養する儀式で、白菊会役員、友田幸一学長をはじめとする教職員が参列。僧侶による読経が捧げられ、参列者は哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。



僧侶と参列者による慰霊碑の供養

第48回関西医科大学実験動物慰霊祭

令和4年11月29日(火) 14時から枚方キャンパス医学部棟加多乃講堂において「第48回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、友田幸一学長や木梨達雄副学長(研究担当)をはじめ、動物実験に関わる教職員が列席しました。参加者全員で黙とうを捧げたのち、附属生命医学研究所実験動物飼育共同施設大隈和施設長(微生物学講座教授)が、これまでの医学の発展における実験動物の存在意義と重要性、そして今後も社会的に適切に動物実験を行っていく必要性を述べ、慰霊の辞を捧げました。その後も研究者や教職員が次々に慰霊に訪れ、尊い

命を捧げた実験動物の冥福を祈りながら菊の花を手向けました。



慰霊の辞を捧げる大隈教授

保護者懇談会を開催

令和4年10月16日(日) 13時から枚方キャンパス医学部棟2階会議室および3階学生セミナー室において「慈仁会個別懇談会」が開催されました。199名の保護者が参加、各学年のクラスアドバイザーと対面形式により面談を行いました。

昨年度と同様に、個別懇談を希望する保護者に対して、予め開始時間を指定し、3密を避けるために来学者は保護者1名に限定するなど、ご協力をお願いしました。

令和4年10月22日(土) 10時から、枚方キャンパス看護学部棟講義室2において、「看護学部保護者懇談会」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染対策として、オンラインでの参加も実施。全体会では、友田幸一学長、加藤令子学部長の挨拶に続き、酒井ひろ子教務部長、近藤麻理学生副部長、大川聡子国試対策委員長から、学修の進捗状況や学生生活、国家試験対策について報告されました。その後は、各学年のクラス担任から学生の様子が報告され、参加した保護者は、熱心に耳を傾けていました。全体会終了後は、事前申し込みのあった希望者を対象に、個別面談を行いました。

令和4年11月12日(土) 11時から、牧野キャンパスリハビリテーション学部棟において保護者懇談会が開催され、保護者52名が参加しました。冒頭に、飯田寛和学部長、理学療法学科池添冬芽学科長、作業療法学科吉村匡史学科長からの挨拶の後、学生部中野治郎部長から学生生活の様子等について、教務部佐藤春彦部長から臨床実習の概要や4年間のカリキュラムについて報告がありました。その後は質疑応答に続き別室にてリハビリテーション学部教員との茶話会が催され、教員と保護者の交流があり、親睦が深められました。また事前に希望していた保護者はチューターとの個別面談が実施されました。懇談会は終始穏やかな雰囲気の下、終了しました。

医

看

リ

若手研究者特集

様々な研究活動とその成果が学内外から表彰され、躍動する本学の若手研究者たち。その活躍の一端をご紹介します。
※記事企画時点で40歳以下で、一定の研究成果を持つ研究者の先生方に取材する連載企画です。

弾性線維欠損マウス及び網膜光凝固術を用いた ポリープ状脈絡膜血管症モデルの作成

医学部 眼科学講座 盛 秀嗣 講師

—研究テーマを教えてください。

眼科学講座の主任教授が加齢黄斑変性をテーマに研究していたこともあり、これに関連し、1型脈絡膜新生血管(CNV)、特にポリープ状脈絡膜血管症(PCV)モデルという、加齢黄斑変性の一亜形の研究を行うことになりました。

当時、眼科学講座での大学院生受け入れは初めてで先輩の院生などおらず、研究環境を整えるところからのスタート。試行錯誤の連続でした。

目指していたCNVモデル動物の論文はわずかしがなく、2報が見つかりました。再現性の高いモデル動物であれば検証実験の論文が続発しますが、当時は2報ともそうした論文がなく、しかも2報とも研究の手法や考察に問題がありました。そこで私は、新たな手法で再現性の高い1型CNVモデル動物の確立を目指しました。ウサギ・マウス等を用いて数々の実験を行いました。実験はことごとく失敗。数々の失敗を繰り返しているうちに大学院3年生となり、このままでは何もできず終わってしまう、と焦っていました。ちょうどその頃、PCVモデル動物の論文にBruch膜弾性板がPCV発生のキーフaktorであることを思い出しました。Bruch膜弾性板についての研究は意外と少なく、これまでに報告されている論文全てが組織学的な研究結果のみであり、分子生物学的手法を行っている論文はありませんでした。

弾性線維に関する知識を深めようと論文を調べてみると、弾性線維研究の第一人者が本学薬理学講座の中邨智之教授であることがわかりました。すぐに薬理学講座に向かい、中邨教授にBruch膜弾性板に関する共同研究をお願いし、快諾していただきました。弾性線維は主に微細線維であるマイクロフィブリルとエラスチンから形成されていますが、その形成過程において、主にLTBP-2・LTBP-4・Fiblin-5が関与しています。まずは弾性線維に形成に関与するマイクロフィブリルの主成分であるFibrillin-1、エラスチンの前駆体であるtropoelastin、LTBP-2、LTBP-4、そしてFiblin-5の5つの重要な成分(蛋白質)に着目し、マウスBruch膜弾性板研究を開始しました。眼球の弾性線維を有する組織(強膜、チン氏帯、Bruch膜など)は各組織によって構成成分が異なります。例えば、チン氏帯にはLTBP-4が存在しません。私は、まずマウスBruch膜にこれら5種のたんぱく質が全て存在することを、免疫染色を用いて証明しました。さらにマウスBruch膜弾性板の形成過程について研究を行い、胎児および成体マウスを用いて、免疫染色・リアルタイムPCR・電子顕微鏡を用いて、組織学的および分子生物学的手法により評価を行いました。これら2つの実験から、マウスBruch膜弾性板の完成が生後3~6週であると断定しました。

大学院修了後も、薬理学講座との共同研究を継続し、最終目標である再現性の高い1型CNVモデル動物の確立に向けて、遺



伝子改変マウスを用いて研究を継続しています。

—研究の道に進んだきっかけを教えてください。

知識を覚えるだけの詰め込みではなく、考える力を身に付けたと思ったのがきっかけです。考える力がなければ、聞いたり、教科書を読んだりして得た知識が正しいのかどうかということは判断ができません。実際、たとえば手術中にはトラブルが起こることなどありますが、自分で考える力がないと、どう対処してよいかわからずフリーズしてしまいます。大学院で学んだことで考える力が身についたので、進学してよかったと実感しています。

—研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

大学院進学の意味は学位とリサーチマインドの取得です。大学院での研究を通じて壁に何度もぶつかり、独力でその大きな壁を打破することでリサーチマインドを修得します。大学院時代に得た技術・知識・人間力は、臨床に戻ったときに大きな力として自分自身を助けてくれます。大学院進学前には考えられなかったような様々な可能性が開けます。]

■略歴

平成22年4月 関西医科大学附属病院眼科 専修医
平成23年7月 財団法人天理よろづ相談所病院(医員)へ出向
平成29年3月 関西医科大学大学院 修了
平成29年4月 関西医科大学附属病院眼科 助教
令和 3年7月 関西医科大学附属病院眼科 講師

■受賞歴

2019年 井街賞受賞
2020年 宇山賞授賞

■競争的研究費採択歴

- 日本学術振興会 科学研究費 基盤研究(C)
網膜静脈症モデル動物における高血圧の影響について
3,900,000円 研究期間：2022年度~2026年度
研究分担者：盛 秀嗣(代表者：高橋 寛二)
- 日本学術振興会 科学研究費 若手研究
弾性線維欠損マウス及び網膜光凝固術を用いたポリープ状脈絡膜血管症モデルの作成
3,900,000円 研究期間：2019年度~2021年度
研究代表者：盛 秀嗣
- 網膜静脈閉塞症における側副血行路形成予測方法の開発
4,290,000円 研究期間：2020年度~2023年度
研究分担者：盛 秀嗣(代表者：大庭 慎平)

介護領域での先端的なリハビリテーションにより 地域高齢者が生き生きと暮らせるシステム構築を目指して

リハビリテーション学部 理学療法学科 脇田 正徳 助教

—現在の研究テーマとそのテーマに決めたきっかけを教えてください。

現在、地域在住高齢者に対するリハビリテーションの効果について研究しています。地域を研究フィールドとしている理由は、理学療法士として本学香里病院の通所リハビリテーション(デイケア)の立ち上げに関わったことがきっかけです。急性期や回復期に比べて、地域のフィールドではリハビリテーションのエビデンスが十分に確立されていないという課題がありました。介入頻度や設備も入院とは異なる生活期において、リハビリ専門職として関わる意義について検証する必要があると感じました。まず自施設で高齢者にとって重要となるアウトカムを選択し、評価を経時的に行うことから始めました。現在は定期的にデータを集計しながら、運動療法の長期的な効果や、利得の得られやすい/得られにくい人の要因について多面的に検証しています。附属4施設での共通したデータベースの構築にも取り組んでいます。

また、研究において特に注力しているのが地域高齢者の転倒予防です。高齢者が要介護状態になる原因として「転倒」の影響は大きく、高齢者の1/3程度は1年に1回以上転倒しています。本学リハビリテーション医学講座で開発されたバランストレーニング機器を通所リハビリテーションの要支援・要介護者に適用し、その効果検証に取り組んでいます。

—その研究について教えてください。

本学で開発したバランストレーニング機器は、歩行ベルト(トレッドミル)が左右2列に並んでおり、前後左右にタッチボタンが4ヶ所設置されています。練習者はトレッドミルを歩きながら、前方のモニターから提示される数字を確認して、該当する数字のボタンを押す課題を行います。数字番号はランダムに提示されるため、練習者は左右レーンを乗り移りながら、多方向へのステップ運動を頻回に繰り返す必要があります。この全身での制御が高齢者の転倒予防に重要な要素と考えています。地域高齢者を対象としてランダム化比較試験を行った結果、一般的なバランストレーニングよりも、バランス能力が有意に改善することが明らかになりました。



—研究の目標としていることや将来展望を教えてください。

本トレーニングによって高齢者のバランス能力が改善することは示されましたが、転倒予防効果についてはまだ分かっていません。また、本機器を展開していく場合には、費用対効果や安全装置のさらなる改良も検討する必要があります。一歩前に進めても、また新たな壁にあたることが多いですが、課題解決に向けて取り組んでいます。現在は、本トレーニングによって運動パフォーマンスがどのように変化するかを解明するため、トレーニング中の動作解析を行っています。また、長期的な追跡によって、転倒予防や認知症予防への効果についても検証しています。



—研究への思いや後輩へのメッセージをお願いします。

地域において理学療法士が関わる領域は多岐にわたりますが、臨床での課題を解決して還元できる研究を進めたいです。そのためは、現場に出て多くの方とディスカッションすることや、他分野の技術にも知見を広げて、新しいアイデアを具現化できるように共同で進めることが重要と考えています。特に、認知症、脳卒中後遺症、フレイル・サルコペニア、転倒に対して、予後予測や包括的なリハビリテーション・プログラムを確立することが喫緊の課題です。高齢化で世界をリードする我が国から、介護領域での先端的なリハビリテーションの効果を発信することが目標です。

これまで、対象者や他職種からのサポートも含めて、多くの方にご協力をいただきながら研究を進めることができています。対象者の真のアウトカムが何かをしっかりと見極め、新しいことにチャレンジしながら研究を楽しむことが大切だと思います。共に進めていきましょう。

■略歴

- 2004年3月 京大医学部医療技術短期大学部卒業
- 2004年4月～ 関西医科大学附属病院
- 2011年3月 畿央大学大学院健康科学研究科修士課程修了
- 2017年3月 京大大学院医学研究科博士課程満期退学
- 2021年4月～ 関西医科大学リハビリテーション学部助教
- 2022年3月 学位取得(博士、人間健康科学(京大))

■受賞歴

- ①第7回日本地域理学療法学会学術大会大会長賞
「地域在住高齢者におけるオープンスキル学習に基づくデュアルトレッドミルでの歩行バランストレーニングの効果:ランダム化比較試験」
- ②関西医科大学同窓会、第40回 令和4年度 加多乃賞
「通所リハビリテーションを利用している地域在住高齢者の予後予測モデルの作成～人工知能による科学的根拠に基づいたリハビリテーションの実現に向けて～」

■競争的研究費採択歴

- ①日本学術振興会 科学研究費助成事業 奨励研究
高齢者の転倒予防を目指した差動学習に基づく歩行練習の有効性の検証
総額:53万円 研究期間:2018年度 研究代表者:脇田正徳
- ②日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
2レーン式トレッドミルを用いた転倒予防練習の運動解析と治療アルゴリズムの開発
総額:416万円 研究期間:2021-2023年度 研究代表者:脇田正徳
- ③日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)
片麻痺歩行再建の治療指針を提供するAIシステムの基盤形成
総額:1,196万円 研究期間:2021-2023年度 研究分担者:脇田正徳
(研究代表者:長谷公隆)
(金額には間接経費を含みます)

第41回関西医大白菊会総会開催

令和4年10月5日(水) 13時から枚方市立総合文化芸術センター別館メセナホールにて第41回関西医大白菊会総会が開催されました。本学教職員と篤志により医学教育のための献体を希望する会員ら69名が参加しました。友田幸一学長の挨拶に続いて白菊会役員への紹介、白菊会会長の挨拶、麻酔科学講座中本達夫診療教授による特別講演会の後に、行事・会計報告、会計監査報告、2022年度予算審議を実施。第2部では、堂迫千草白菊会副会長と堂迫康雄トリオの演奏による「堂迫千草オンステージ」が上演され、盛り上がりました。



中本診療教授による特別講演

医療ニーズ発表会

令和4年10月24日(月) 17時から、枚方キャンパス医学部棟4階中会議室からのオンライン配信形式で今年で5回目となる「医療ニーズ発表会」が開催されました。これは学内教職員から募った医療ニーズを、ニーズの新しさ・技術の難易度・商品性等の観点から選抜し全国の製販企業に向けて発信するもので、産学連携による医療ニーズの社会実装化の取組みです。友田幸一学長の挨拶に続き、応募されたニーズの中から、選抜された29件について発表が行われました。



挨拶する友田学長

附属病院 病院情報システム安全管理研修会を開催

令和4年12月2日(金) 16時から、附属病院13階講堂において病院情報システム安全管理研修会が開催されました。「私たちの病院の信頼をみんなで守ろう！」をテーマに、集合研修およびWeb形式にて開催し、医師、看護師、医療技術職、事務職を含む職員56名が参加しました。医療情報部副部長仲野俊成准教授から「安全な情報システムの取り扱いとプライバシー保護」と題し講演が行われ、医療情報を取り扱う際の安全管理について理解を深めました。



講演する仲野副部長

附属病院 「術中脳・脊髄・神経モニタリングセンター」開設

令和4年11月1日付で術中脳・脊髄・神経モニタリングセンターを開設しました。当センターは各種外科手術の際、神経損傷の発生をできる限り低減させるために、手術中に患者さんの神経の状態の変化を観察する術中神経モニタリングを施行する部門です。手術中にそれぞれの神経に応じた誘発電位を測定することで脳・脊髄のみでなく、排尿・排便に関する末梢神経をも対象として適切な神経モニタリングを行っていきます。

手術担当科、麻酔科を含めた関連科と担当者が協力して術中神経モニタリングを行い、患者さんの術後発生する神経機能障害の低減をめざした活動にご期待ください。

総合医療センター **糖尿病デーフェスタ開催**

令和4年11月19日(土) 14時から、総合医療センター本館1階において「世界糖尿病デーフェスタ2022 防ごう！知ろう！糖尿病！『糖尿病足病変』～見逃していませんか？その足の傷～」が開催され、患者さんやそのご家族など19名が来場しました。血管外科深山紀幸講師が「糖尿病と血管病～見逃していませんか？その足の傷～」と題した講演を行った他、健康科学センター久保田眞由美健康運動指導士による運動実演「生涯元気宣言！みんなで身体を動かそう！」が行われました。そのほかにも血糖測定、展示コーナー、医師相談、インスリン体験などのコーナーが設けられ、熱心に説明を聞いたり体験に取り組んだりする参加者の姿が見られました。



講演する深山講師

総合医療センター **守口市門真市消防組合との集団災害対応訓練**

令和4年11月16日(水)から18日(金)の3日間、守口市門真市消防組合が門真自動車教習所にて実施した集団災害対応訓練に、中森靖副病院長(救急医学科診療部長)、救命救急センター齊藤福樹センター長、救急医学科岩村拓助教が、救急指導医として参加しました。

この訓練は、集団災害に対する消防対応力向上および傷病者の救護体制強化を目的に同組合が管内で初めて実施したもので、数十人規模の集団食中毒が発生したという想定のもと、医師と事務員が現場に入り、トリアージや診察、患者搬送の訓練を行いました。

消防隊や救急隊と連携し訓練を行うことで、互いに地

域の災害対応への意識を高め、救急医療体制確保のための連携強化の機会となりました。



初期治療を行う中森副病院長

総合医療センター **がん教育講演会**

令和4年10月20日(木) 14時30分から守口市立錦中学校(守口市)において、緩和ケアチーム大橋理紗がん看護専門看護師が2学年全クラスの生徒を対象にがんについての出張授業を行いました。これは大阪府が進める学校教育でのがん啓発活動の一環としての取り組みで、がんに関する知見の社会還元を目的としたものです。

授業では、現在のがんの状況説明、がんの早期発見・早期治療への助言などをわかりやすく解説。大人数での授業ということもあり、生徒の集中力が持続するようクイズなどを交えて授業を進行し、積極的に生徒とコミュニケーションをとっていました。参加した生徒からは「がんの痛みはどんなものですか」「身近でがんになった方は

いますか」といった質問が寄せられ、がんについて考える貴重な機会となったようでした。



授業を行う大橋看護師

香里病院

日曜乳がん検診（ピンクリボン）開催

令和4年10月16日(日)9時から13時まで、日曜乳がん検診を実施しました。昨年に引き続き、認定NPO法人J.POSHがJ.M.S[®]（ジャパン・マンモグラフィー・サウンダー）と称して取り組む「毎年10月第3日曜日に乳がん検診マンモグラフィー検査を受診できる環境づくり」に賛同して実施し、当日は18名が受検しました。



担当者による集合写真

卒後臨床研修センター



医師及び歯科医師臨床研修プログラムフルマッチ

令和4年10月27日(木)、医師臨床研修マッチング協議会により医師臨床研修マッチングの結果が公表され、令和5年度採用者が確定しました。附属病院及び総合医療センターの研修プログラムは共に今回も100%のフルマッチとなりました。これは令和4年7月22日(金)および8月12日(金)、枚方キャンパスにおいて行われた「令和5年度研修医採用試験」の結果を受けてのものです。

また、令和4年10月25日(火)、歯科医師臨床研修マッチング協議会により歯科医師臨床研修プログラムの結果が公表されましたが、こちらも2年連続100%フルマッチとなりました。これは令和4年8月12日(金)及び8月27日(土)に枚方キャンパスで行われた「令和5年度研修歯科医採用試験」の結果を受けてのものとなります。

看護キャリア開発センター



第6期「関医・看護師リカレントスクール」を開講

令和4年10月17日(月)10時から枚方キャンパス医学部棟4階中会議室において、第6期「関医・看護師リカレントスクール入校式」が挙行され、受講する9名が入校式に臨みました。教職員8名が臨席する中、金子一成リカレントスクール長からの告辞に続き、受講生代表の決意表明が行われました。

リカレントスクールでは、およそ2カ月間、リモートでの講義や、シミュレーションセンターで最新の機器を使った演習、附属4病院の訪問看護ステーションでの実習など、看護師への復職を支援するためのプログラムが行われました。

12月5日(月)に行われた修了式では、受講生一人ひとりに金子スクール長から修了証書が手渡されました。



修了式で告辞を述べる金子スクール長

学会主催報告

令和4年10月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

第65回日本甲状腺学会学術集会

■会期 令和4年11月1日～3日

■場所 大阪国際会議場

■テーマ 革新と伝統が織りなす甲状腺学—未来への挑戦—

新型コロナウイルス感染症対策には十分に配慮し、3年振りの現地での開催と致しました。1,200名を超える方々に御参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。特別講演には Antonio Bianco 先生(シカゴ大学)をお招きし、招請講演には本学的小林久隆先生に御講演頂きました。シンポジウム、教育セミナー、教育講演、女性甲状腺ワークショップ、ハンズオンセミナーなど盛りだくさんな内容で、御参加頂いた先生方には大変ご好評を頂きました。御支援御協力頂きました皆様に心より御礼申し上げます。

【学会長：内科学第二講座 豊田 長興 診療教授】



第35回International Symposium on Pediatric Surgical Research

■会期 令和4年10月21日～23日

■場所 大阪国際会議場(グランキューブ大阪)

今回で35回目を迎える歴史的な本会は、毎年世界各国の主要な都市で開催され、国内では2010年の東京、2019年の福岡以来3回目、関西では初めての開催となりました。コロナ禍の波の合間を縫っての難しい状況の中での久しぶりの完全現地開催となった本会では、世界中からおおよそ130名もの小児外科学の基礎および臨床研究を行っている医師や研究者が集まり、100を超える質の高い口演演題発表とともに、非常に活発な意見交換が行われました。また本会では英文誌Pediatric Surgery InternationalがOfficial Journalとなっており、投稿数として過去最高の60を超える原著論文を集めることができました。御参加いただいた先生方には大変ご好評で、無事盛会に終えることができました。御協力いただきました関係各位、皆さまにはこの誌面をお借りして心より感謝申し上げます。

【大会長：外科学講座小児外科 土井 崇 診療教授】



第29回日本静脈麻酔学会

■会期 令和4年11月25日～26日

■場所 千里ライフサイエンスセンター

本学整形外科の安藤宗治教授に特別講演「脊椎脊髄外科における術中神経生理学的モニタリング」をお願いした他、会長講演として「新しいTCIアルゴリズムについて」をお話ししました。「TIVAの教育を考える」のシンポジウムではどのようにして適切な静脈麻酔を教育し普及させるかということについて3人のシンポジストに発表してもらいました。また、一般演題14題で活発な討論が行われました。盛会のうちに終わることができました。

【第29回日本静脈麻酔学会会長：麻酔科学講座 萩平 哲 診療教授】



第19回日本循環器看護学会学術集会

■会期 令和4年10月1日～2日

■場所 枚方市総合文化芸術センター / 関西医科大学看護学部棟

■テーマ 臨機応変

会場ならびに関西医大大ホール・小ホールに集約したメインプログラムのオンデマンド配信によるハイブリッド形式で開催いたしました。循環器のみならず幅広くご専門の方々に実りあるようにプログラムを構成し、多職種含めて総参加者は1,327名でした。3年ぶりの現地開催では、各セッションともに貴重な講演・発表・活発な討論が行われ盛会でした。本学関連施設の皆様には多大なるご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

【会長：看護学部・看護学研究科 慢性疾患看護学領域 瀬戸 奈津子 教授】





学会賞等受賞情報

令和4年10月～12月の学会賞受賞者等を紹介いたします。

地域貢献賞

放射線科学講座 中村 聡明 准教授

- テ ー マ COVID-19対策やWOWIなどWEBセミナーを活用した地域の啓発・教育活動
- 授与学会 日本放射線腫瘍学会第35回学術大会



若手奨励賞

神経内科学講座 犬塚 諒子 助教

- テ ー マ 頭蓋内病変を伴っていたStormorken症候群の一例
- 授与学会 第122回日本神経学会近畿地方会



AMEE 2022 Research Paper Award

教育センター 林 幹雄 講師

- テ ー マ Identity conflicts of student affairs officers in a medical university
- 授与学会 欧州医学教育学会(AMEE)



学術大会長賞

リハビリテーション医学講座 倉本 仁 大学院生

- テ ー マ 脊柱術後歩行障害に対するマーカース歩行解析の臨床応用の可能性
- 授与学会 第10回日本運動器理学療法学術大会

令和4年度歯科医師臨床研修指導医講習会
ベストプレゼンター賞

病理学講座 野田 百合 助教

- テ ー マ 人生における教育の重要性
- 授与学会 令和4年度公益社団法人日本歯科医師会



ロッシュ若手奨励賞

内科学第二講座 丸岡 あずさ 大学院生

- テ ー マ ヒトiPS細胞から膝β細胞への分化に及ぼす甲状腺ホルモンの作用を解明する
- 授与学会 第65回日本甲状腺学会学術集会



臨床部門(ジュニア) 優秀賞

神経内科学講座 村上 綾 助教

- テ ー マ 上位運動ニューロン優位運動ニューロン病は非定型パーキンソンニズムを呈する
- 授与学会 第16回パーキンソン病・運動障害疾患コンgres

第14回日本質的心理学会 学会賞
優秀社会貢献論文賞

看護学部 基礎看護学領域 鮫島 輝美 教授

- テ ー マ 医療的ケア児の保育を可能にする「分けない」実践 看護師が設立した保育園のフィールドワークから
- 授与学会 第14回日本質的心理学会



2022年度学会賞(症例報告部門)

神経内科学講座 村上 綾 助教

- テ ー マ An autopsy case report of neuronal intermediate filament inclusion disease presenting with predominantly upper motor neuron features
- 授与学会 日本神経病理学会

Travel Award

神経内科学講座 村上 綾 助教

- テ ー マ Clinicopathologic features of upper-motor-neuron-predominant motor neuron disease with TDP-43 presenting as atypical parkinsonism
- 授与学会 International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders

西日本支部奨励賞

附属病院薬剤部 橋本 みさき

- テ ー マ ニューモシスチス肺炎予防的に投与されたスルファメトキサゾール・トリメトプリム配合錠の投与中断に至る有害事象の検討
- 授与学会 70回日本化学療法学会



本学教職員編著作物の紹介

令和4年1月～12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。 ※判明分のみ

- 『コーチング心理学概論 第2版』 心理学教室 西垣 悦代 教授 編集
出版：ナカニシヤ出版 発行：令和4年8月
- 『肺癌薬物療法レジメン Expert's Choice』 呼吸器腫瘍内科学講座 倉田 宝保 教授 編集・監修
出版：メジカルビュー社 発行：令和4年3月
- 『小児科診療 Controversy』 小児科学講座 金子 一成 教授 編集・監修
出版：中外医学社 発行：令和4年9月



教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。
(主に令和4年10月1日～12月31日 ※判明のみ)

■ テレビ等

関西医科大学附属病院	毎日放送「よんチャンTV」 2022.12.20
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	毎日放送「情熱大陸」 2022.12.11
リハビリテーション医学講座 坂本 慶太 作業療法士	NHK「ニュースほっと関西」 2022.12.1
医化学講座 中川 学 講師	毎日放送「よんチャンTV」 2022.11.29
救急医学講座 中森 靖 診療教授	NHK「ニュースほっと関西」 2022.11.28
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	香港フェニックステレビ 2022.11.23
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道RUNNER」 2022.11.23
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんチャンTV」 2022.11.21
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんチャンTV」 2022.11.21
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道RUNNER」 2022.11.9
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道RUNNER」 2022.10.26
光免疫医学研究所 小林 久隆 所長	日本テレビ「カズレーザと学ぶ」 2022.10.25
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「よんチャンTV」 2022.10.24
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道RUNNER」 2022.10.14
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道RUNNER」 2022.10.4

■ 新聞・雑誌等

微生物学講座 大隈 和 教授	読売新聞 2022.12.31
看護学部 三木 明子 教授	毎日新聞 朝刊 2022.12.25
看護学部 三木 明子 教授	神戸新聞 2022.12.17
看護学部 三木 明子 教授	奈良新聞 2022.12.17
小児科学講座 石崎 優子 診療教授	毎日新聞 2022.11.19
国際大学院	産経新聞 朝刊 2022.11.12
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	読売新聞 夕刊 2022.10.26
小児科学講座 石崎 優子 診療教授	毎日新聞 朝刊 2022.10.23
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	読売新聞 朝刊 2022.10.23
心理学 西垣 悦代 教授	読売新聞 朝刊 2022.10.22
外科学講座 吉田 明史 病院助教・海堀 昌樹 診療教授	日経産業新聞 2022.10.17
北河内メディカルネットワーク	最新医療経営PHASE3 2022.10.10
眼科学講座 盛 秀嗣 講師	読売新聞 朝刊 2022.10.5
健康科学教室 木村 穰 教授	FANCL元気生活 2022.10.1

■ Webメディア等

精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	メディカルトリビューン 2022.12.19
松田 公志 広報担当理事	毎日新聞 2022.12.15
関西医科大学	毎日新聞 2022.12.14
外科学講座 木川 雄一郎 助教	がんナビ 2022.12.7
医化学講座 寿野 良二 講師	QLifePro 2022.12.6
香里病院総合診療科 上尾 礼子 講師	メディカルトリビューン 2022.11.21
くずは駅中健康・健診センター	官庁通信社 2022.11.9
リハビリテーション学部理学療法学科 浅井 剛 准教授	神戸新聞NEXT 2022.11.8
くずは駅中健康・健診センター	枚方つーしん 2022.11.1
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	QLifePro 2022.11.1
外科学講座 海堀 昌樹 診療教授	日経バイオテック 2022.10.31
小児科学講座 藤代 定志 助教	メディカルトリビューン 2022.10.31
関西医科大学	官庁通信社 2022.10.27
呼吸器腫瘍内科学講座 生駒 龍興 助教	日経バイオテック 2022.10.27
内科学第三講座 四十万谷 卓也 研究医員	メディカルトリビューン 2022.10.27
内科学第三講座 長沼 誠 教授	メディカルトリビューン 2022.10.27
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	フジテレビFNNプライムオンライン 名医のいる相談室 2022.10.26
小児科学講座 藤代 定志 助教	QLifePro 2022.10.25
小児科学講座 藤代 定志 助教	テックプラスbyマイナビニュース 2022.10.24
小児科学講座 藤代 定志 助教	日経バイオテック 2022.10.21
内科学第三講座 長沼 誠 教授	フジテレビFNNプライムオンライン 名医のいる相談室 2022.10.20
健康科学教室 木村 穰 教授・黒瀬 聖司 講師	スポーツ栄養Web 2022.10.13
小児科学講座 赤川 翔平 講師	QLifePro 2022.10.12
小児科学講座 赤川 翔平 講師	日経バイオテック 2022.10.7
精神神経科学講座 加藤 正樹 准教授	メディカルトリビューン 2022.9.30
医化学講座 寿野 良二 講師	日経バイオテック 2022.9.14

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

寒さに縮こまりながら出勤していたら、キャンパス内の桜の木のつぼみが膨らんできているのが目に入りました。この寒い時期に、次の春に向けて養分を蓄える植物の生命力を感じました。今年も来年。飛躍の年とできるでしょうか。

皆様にとって良き一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。(さ)

関西医科大学広報 Vol.60

発行 学校法人 関西医科大学
編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2638

<https://www.kmu.ac.jp/>

E-mail:kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

令和5年1月23日(月)発行